

令和7年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	意欲的に自分の夢を育み、その実現に向け確かな学力を身に付け、国際的な視野を備えた、社会に貢献できる人間の育成を目指す。	
三つの方針（スクールポリシー）		
育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①主体的に考え、多様な人たちと協働して、生涯にわたって学び続ける態度を育成します。 ②夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組み、探究的に学んでいく力を育成します。 ③グローバルな視点を持ち、多様な価値観を尊重し、社会に参画して貢献できる能力を育成します。 ④共生社会の実現に向けて、互いに人格と個性を尊重し支え合う姿勢を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①総合的な探究の時間を軸に教科横断的な学びに取り組み、各教科において探究的に学ぶ授業を行います。 ②地域や大学等と連携し、課題発見・課題解決能力を育成する教育活動を展開します。 ③ICTを効果的に活用し、主体的に学び思考力や表現力を高める学習を行い、進路希望実現に必要な学力を養います。 ④部活動、学校行事等を通して、仲間と協力して積極的に行動する活動に取り組みます。 ⑤インクルーシブ教育を推進し、自己肯定感を高め、他者を尊重する心を育てます。	
入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	～このような生徒を求めています～ ①将来の夢を育み、目標を達成するために主体的に学ぶ意欲がある生徒 ②探究活動に熱心に取り組む意欲がある生徒 ③部活動、生徒会活動、学校行事等に積極的に取り組む生徒 ④他者に対して寛容で思いやりのある言動を心がけることができる生徒 ④ルールやマナーを守り、互いに切磋琢磨して自らを高めようとする生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
（成果） ①進路実現に向けた取り組みは成果が見られ、国公立大学合格者数は延べ人数で70人となり、昨年度より7人上回った。 ②三菱みらい育成財団による探究事業、DXハイスクール事業、高大連携先の大学からの探究活動への支援により、探究活動の質の向上が図れた。 （課題） ①学力の向上 ・学習習慣の確立と基礎学力の向上を重視した上で、主体的、探究的な学びへの転換を図る。 ②目的意識・意欲の形成 ・自己実現を目指す進路探究、社会に貢献する態度の育成、生涯にわたって学び続ける態度の育成を進める。 ③人格の完成 ・多様な人とともに学びあい、個人の価値を尊重する態度や自他の敬愛と協力を重んずる。 ③学校の魅力発信 ・学校の日常の様子をnoteや学校見学会で広め、志願者の確保につなげる。	計画的な進路探究を通して、進路目標の明確化を図る。	①3年間を見通した進路探究活動と高い志の育成。 ②「総合的な探究の時間」により論理的思考力・判断力・表現力の育成を図る指導を確立し、主体的な学びへ転換する。
	進路目標達成のため、学力の向上を図る。	①学習習慣の形成。 ②基本事項の精査と反復学習の徹底。 ③わかりやすい授業、考えさせる授業、双方向性のある授業の実践。電子黒板をはじめとするICT機器を活用した授業の展開。 ④社会に対する興味関心の育成、貢献する態度の育成。
	・挨拶の励行を基軸に基本的な生活習慣を確立する。 ・部活動・学校行事への主体的な取り組みを通して、健全な精神と粘り強い精神を育成する。	①挨拶の徹底を図る。 ②交通マナーを遵守させる。 ③健康維持と体力の増進を図る。 ④多様性を尊重し、インクルーシブ教育を実践する。
	・保護者・地域に向けて情報提供を積極的に行う。 ・地域社会との交流を通して生徒の社会性を培う。	①秋陵会総会、親師会総会や進路講演会、学年懇談会等のあり方を工夫し、活動の活性化を図る。 ②ホームページや会報の充実を図り、学校の教育活動を積極的にPRする。

	①重点目標	②具体的目標	④具体的方策	評価			
教務	授業時間を有効に用いて、確かな学力をつける。	授業時数の確保	十分な授業時数を確保できる行事計画を作成する。	A			
			行事予定や日々の日程・時程をわかりやすく提示し、計画的に行動できるようにする。				
			授業変更を促し、自習時間を削減する。				
教務	校務の合理化を進める。様々な変化に対応する。	成績処理の変更等に伴う業務を整理し、校務システムを適切に活用する。	校務支援システムの入力方法を周知する。	A	A		
			複数人での確認作業を行う。				
			修正方法を確認し、速やかに修正する。				
生活指導	正確な事務処理を行う。	外部への文書・報告の記載ミスなくす。	各係の責任と協力(チェック)体制を明確にする。	B			
			規範意識の向上			基本的な学校生活習慣を確立し、身だしなみを整え、時間厳守の指導を行い、けじめある学校生活を送らせる。	無断での早退・外出を防止するために必ず届けを提出させる。また、時間厳守の指導を行い、けじめある生活をさせる。
						交通ルールおよびマナーを遵守させ、交通安全に努めさせる。	各学期はじめに1週間の登下校指導を実施し、服装の指導を中心に、挨拶の励行を行う。
			1・2学期に学校付近の主要3ヶ所で約1週間の通学指導を行い、バイク・自転車の乗車マナーを指導する。	B			
			バイク通学に対して、交通安全講話と1回のバイク講習会を実施する。				

①重点目標		②具体的目標	④具体的方策	評価	
生徒会指導	生徒の自主性を育むため、生徒会係で助言等をし、活動の活性化に努める。	生徒の企画・立案を尊重しつつも、適切な助言を行う。生徒会の活動内容について、丁寧に発信する。	生徒会新聞(メイデンマガジン)を発行し、生徒会活動について生徒に広報活動を行い、行事等の活性化に努める。体育祭や秋陵祭等の行事について地域への案内も積極的に行う。	B	A
	各種行事の充実を図り、それぞれの生徒が主体的に参加できるよう指導する。部活動への主体的な取り組みを通して健全な精神を育成する。	執行部と係職員との連携を緊密にし、生徒全員が積極的に関われるよう、各種行事を工夫する。4月の部活動紹介や壮行会等を通じて、文武両道を学校全体で支えられるような雰囲気醸成する。	代議員会及び専門委員会を通して、行事等の説明を分かりやすく伝える。部活動紹介、部活動登録、部活動単位での学校行事への参加により部活動の活性化を図る。県総体および上位大会の壮行会を行い、部活動等で頑張っている生徒を全校あげて応援する。	A	
保健環境	生徒各自が自主的に健康を保持増進する能力と態度を養う。	健康診断の目的を正しく理解し、積極的に受ける態度を養う。	定期健康診断で健康状態を把握させ、事後処理を行う。日々の健康観察を行い、それに即した保健指導を実施する。	A	A
	メンタルヘルスに関する情報発信と支援を行う。	生徒自身が自分のメンタルの状況について正しく把握し、問題を一人で抱え込むことなく、適切な支援を積極的に受けようとする姿勢を養う。	多面的に情報を集め、保健だより等を通じて、積極的に情報発信を行う。スクールカウンセラー、学年と連携して予防的かつ迅速に支援を行う。		
	学習環境の整備改善に努める。	毎日の清掃指導を徹底させる。自主的に清掃に取り組む態度を養う。	清掃点検を常時行い、平常清掃の徹底を図る。また、大清掃を実施し、校舎内外の美化整備に努める。	A	
	非常時の適切な対応。	災害発生時における避難を安全かつ迅速に行えるようにする。 運動部員および職員が、緊急時にAEDを使用した緊急対応ができる。	避難訓練を実施し、生徒の安全誘導と人命尊重の精神を養う。 救急法講習会を実施し、職員の積極的な参加を呼びかける。(7月:AED実習、熱中症対策など)	B	
進路指導	・生徒に進路志望を明確にさせ、それを現役で実現できるようにする。	進路の情報を適切に発信し、授業を第一として生徒が主体的かつ能動的な学習のできる環境を作る。また、学年・教科で課題を洗い出すとともに、アンケート等の結果もふまえ、次の指導計画に反映させる。 PDCAで進路業務を可視化し、生徒へ継続した組織的な指導を行う。	①生徒面談や保護者面談で生徒・保護者の希望を明確化し、必要な情報を適宜提供する。 ②各教科が弱点分野の克服ができるよう、模試結果の分析から、重点指導項目を明らかにする。 ③進路たよりを年6回程度発行する。	A	A
	・探究活動を通じて、生徒に次代の社会を創る観点を持った資質や能力を身につけさせる。	国立大学合格者を30名以上、または国公立大学と合計80名以上にする。 生徒が「型」(考え方の技法)を習得し、答えのない問いに挑める姿勢を身につけ、自己実現に繋げる。	①国公立大志望者について、全国を視野に入れ検討させる。 ②全職員で役割を分担し、個別指導を行う。 ③探究活動において、「研究の流れ」を体験させる。 ④研究結果を論文やレポートにまとめ上げ、発表させる。 ⑤発表会で他者の研究結果に触れさせる。	A B A	
	地域と連携したPTA活動の活性化	PTA活動への積極的な参加を促す。	早い時期から総会の案内を出し、多くの参加を促す。 自動車を利用して来れるような会場で開催するとともに、駐車場へのスムーズな誘導ができるようにする。	B A	
渉外情報	教育活動の情報の発信	ホームページを利用して学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。	行事毎に、できるだけその様子をホームページに掲載する。	B	A
	図書館活動の充実	購入図書の新選や図書館の整備、広報・レファレンスの充実等により、各種利用を促進する。	図書館だより等を活用して情報を発信し、利用を促進する。	A	
	広報活動の充実	学校評価アンケートを実施し結果を分析することで、各部署に対し次年度に向けての改善を促す。	アンケート結果の分析内容を学校全体で共有し、各部署の次年度の学校自己評価表に反映させるよう呼びかける。	A	

①重点目標		②具体的目標	④具体的方策	評価	
1 学 年	主体的な学習習慣の確立および論理的に考え、判断し、表現する力の育成	主体的な学習の習慣を確立し、3年間の基礎となる学力をつけるとともに将来の進路意識を育成する。	面談を通じて、学習習慣、教科ごとの学習方法、将来の進路についてなど、具体的に指導・助言する。	A	A
		生徒自らが課題を設定し、論理的に考え、判断し、表現する力を育成する。	各教科の授業・総合的な探究の時間・LHR・学校行事等、学校においてのすべての活動を通じて、論理的に考え、判断し、表現する力を育成する。	A	
	基本的な生活習慣の確立と文武両道の促進	挨拶、身だしなみのマナー、スマートフォンの適正な使用、時間や提出締切の厳守など、基本的な生活習慣の確立を目指す。	挨拶の励行、定期的な身だしなみの指導、スマートフォン使用上の指導などを行う。また、時間や締切の意義を理解させ、厳守させる。	A	
		部活動への加入を促し、学習と部活動の両立を目標として精神的・身体的な成長を図る。	時間を守ったきびきびとした部活動をすることによって、学習と部活動の両立を実現させる。	A	
生徒理解および生徒面談の充実	生徒との面談等を通じて、生徒の悩みや困難に対して共感や理解を図ることで、充実した学校生活を送れるように支援する。	個別面談を充実させることで、生徒の悩みや困難を把握し、生徒への共感や理解を深める。また、職員間で情報を共有し、組織的に対応する。	A		
2 学 年	各教科の知識・技能習得と論理的思考力の向上	各教科・科目の学習内容を十分に理解し、意欲的に学習活動に取り組ませる。入手した情報や自らの考えを明確に説明できるようにする。	・面談を通じ個別に学習習慣について指導助言を行う。 ・「予習・授業・復習」サイクルを徹底させる。 ・授業やLHR、新聞ダイジェスト等の活動を通じ、自己の考えを深め、論理的に表現する力を育成する。	A	A
	自己管理能力の向上	基本的な生活習慣を確立させる。	・出席状況、日頃の生徒観察、生徒とのコミュニケーションから、問題を察知したら素早く職員間で情報を共有し組織的に対応する。	A	
	協働性、行動力の向上	学習や諸活動に主体的に取り組む態度と、仲間の立場や意見を尊重し協力して課題解決する態度を育成する。	・生徒会活動や部活動、修学旅行などの学校行事、探究活動に積極的に取り組み、認め合い高めあう人間関係を築かせる。	A	
	自己実現の展望を描き、自ら学びに向かう人間性の育成	学びたいことや、大学卒業後に社会でどのように活躍したいかを考え、具体的な志望校を考えさせる。	・進路探究活動や総合的な探究の時間、面談等を通して目標を設定し、努力を継続する態度を育てる。	A	
課題解決や目標達成に向けた行動を実践する力を育成する。		・自らの進路実現に向け、学校内外の諸活動に積極的に参加するなど、主体的に行動することを奨励する。目標への実行、到達度を評価させる。	A		
3 学 年	自己実現へ向けて本校での学びを生かし、進路目標を達成させる。	社会的・職業的自立に向け、自己表現力を高め、他者と協働できる態度を養う。	最上級生として学校行事に積極的に取り組み、他者との協働を通して、コミュニケーション能力や問題解決能力の伸張を図る。	A	A
			自分の適性や学力等を的確に把握し、学力向上にむけて努力させる。	A	
		学力や将来の職業観を向上させ、また進路目標実現に向けた意志決定と、計画立案、実行などに正しい努力ができるよう支援する。	進路実現に求められる学力など諸能力の育成のため、面談などの指導により、「計画立案、実行、検証、修正、実行」という循環的な活動を継続させるよう指導する。	A	
			上記のために、情報提供や自らの収集を通じて、多様な入試制度を踏まえた計画を立てるよう指導する。	A	
		目標達成後の自分の姿を考えて行動する力を養う。	具体的な進路目標を設定し、進路実現に向けて努力させる。	A	
国 語	基礎学力の定着・向上	・進研模試の偏差値50以上の生徒50%以上を目指す。	小テスト・週課題の継続的な指導を通して基礎力の定着を図り、授業の中で効率的な予習・復習を促し、読解力を高めさせる。	B	B
		・各種小テストを計画的に実施し、共通テストに向けて基礎力をつける。	小テストの合格基準(70~80%)に達しない生徒について、個別指導を行うことによって基礎学力の重要性を理解させ、実践力の養成につなげる。		
	大学進学に向けた実践力養成	ベネッセ駿台模試全国偏差値で50以上を目指す。また、共通テストで全国平均を多くの生徒が上回ることを目指す。	各種小テストによって基礎力を高める。 授業・各補習講習・特編授業を入試に対応できるように充実させる。 個別指導を積極的に行う。	B	

①重点目標		②具体的目標	④具体的方策	評価	
地歴公民	基礎学力の定着・向上	定期考査・模擬試験等を節目として、定期的に課題を課しながら、授業において基礎内容の充実・定着に努める。	電子黒板を活用し、知識の定着をはかり、タブレットを利用した教員と生徒の双方向の授業に取り組む。	A	A
	大学進学に向けた実践力養成	模擬試験で偏差値50以上、大学入学共通テストで全国平均以上30%以上をめざす。	日々の授業・平日講習・夏期講習・特編授業等を通じて、大学受験に対する意識を向上させるとともに、問題演習により学力向上への意欲を高め、志望校に合格する実力を養成する。	B	
数学	基礎学力の定着と向上	数学の授業において、内容が理解できている生徒の割合を増やす。	授業内容を充実させ、基礎学力の定着と向上に努める。長期休業中や放課後に補習を実施し、成績上位層および下位層のレベルアップに努める。	A	A
	大学進学に向けた実践力養成	入試問題に対応できる実践的な学力を身につけさせ、多くの生徒が大学入学共通テストにおいて、全国平均点以上の得点ができることをめざす。	大学入学共通テストの対策問題に取り組ませ、問題解決能力を磨く。直前には実践問題を繰り返し実施する。 授業や講習等で入試問題演習を行い、入試問題に対応できる学力を身につけさせる。	B	
理科	理科学的な見方・考え方の醸成	自然現象の本質を見抜く能力、原理に基づいて論理的にかつ柔軟に思考する能力、自然現象の総合的な理解力と表現力の育成を図る。	教材開発や公開授業等を通して、授業改善と指導力の向上に努め、また、実験・観察を取り入れ理科学的な見方・考え方を深める。	A	B
	基礎学力及び大学受験のための実践力養成	様々な課題や問題を、科学的な見方・考え方によって解決できる実践力を育成する。	知識に重点を置くだけでなく、結果が導かれるまでのプロセスを重視した授業や実験を行う。授業や夏期・冬期などの補習、特編授業の問題演習を通して、生徒の実践力の養成を図る。	B	
保健体育	自らの健康を管理し、改善・向上していく能力を養う	事例や統計資料等を出しながら、自らの健康について考えさせる。	社会における我が国が抱える健康問題・環境問題等の状況を具体的に把握させる。生涯の各段階における健康・安全に関する課題への対応、保健・医療の制度や機関の適切な活用について理解を深める。	A	A
	基礎的な体力・筋力の維持・向上を図る	授業を通して補強運動を実践させ、体力の維持・向上を意識させる。	年間を通して、各種目に応じた補強運動や準備運動を実施する。体力向上の目安としてスポーツテストの各種目において県平均を上回るようにする。	A	
芸術	豊かな情操の育成	表現や鑑賞に必要な知識と技能を身に付けさせる。 「聴く力」「見る力」「感じ取る力」および「創る力」を育成する。 きめ細かな実技指導を展開し、学習の成果を上げる。	素材の見分け方や生かし方を学ぶとともに、それらを生かして創作・演奏・鑑賞などができるようにする。 ICTを活用するなどし、質の高い作品に触れさせるとともに、資料や情報を提供し、生徒の意欲・興味を喚起する。また、作品の背景となる文化や歴史について理解を深める。 創作意図に基づいた作品作りに取り組む姿勢を養う。また発表の場を設け、互いに批評し合うなどの言語活動を行う。	A B A	A
	主体的・自立的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成	年間の英語学習を通して、主体的、自立的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒が100%	単元等のまとまりごとの目標を明示し、目標達成のための言語活動を通じて資質・技能の育成を図る英語学習の展開を促す。総括的評価だけでなく、形成的評価を積極的に活用する。	A	
	英語の知識理解と、目的や場面、状況などに応じてそれらを活用してコミュニケーションを図ることができる力の育成	CEFRのA2レベル達成生徒が100%	統合的な言語活動を軸に据えた授業を展開する。生徒の実態に応じて基本的に英語で授業を行う。実際のコミュニケーションの場面を意識したパフォーマンス評価を行う。	A	
家庭	生活に必要な知識と技術を身につける	生活的自立を目指し、生活に必要な知識と技術を身につけさせる。	ICTを活用し学習内容、実習内容を精選する。作品製作では、できる限り個別指導を取り入れる。	A	A
成果		生徒アンケートの結果から、ほとんどの項目において、満足度や到達度が評価指標でA段階であり、充実した取組を行うことができた。探究活動では、DXハイスクール事業による助成や県内大学との連携協定を活用することで、仮説検証型の探究活動において、成果が現れている。		総合評価 A	